



児童・生徒作文の文体の計量的分析の試み： 文章文体値の利用の一例として

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 北海道教育大学国語国文学会・札幌 公開日: 2023-11-02 キーワード: 作成者: 馬場, 俊臣 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.32150/0002000064

児童・生徒作文の文体の計量的分析の試み

——文章文体値の利用の一例として——

馬場 俊 臣

1. はじめに

本稿では、児童・生徒（小学生、中学生、高校生）が書いた作文の文体の違いについて、「文章文体値」という指標を用いて、計量的に分析することを試みる。

文章の文体の分析は、さまざまな観点から行われている。本稿では、「より軟らかい話し言葉的な文体」対「より硬い書き言葉的な文体」という文体の硬軟に着目して分析を行う。

文章の文体の硬軟を分析する指標として、文章文体値が提案されている（馬場 2022b）。これは、文章中に使われている語の文体（硬軟）の違いに基づいて、その文章の文体（硬軟）の程度を数値化したものである。本稿では、この文章文体値を用いる。

児童・生徒の作文に使われる語の学年的発達は、「より軟らかい話し言葉的な文体で用いられやすい語」の使用が減少し、「より硬い書き言葉的な文体で用いられやすい語」の使用が増加する方向に進むことが予想される。そうした使用語彙の変化を反映して、作文の文体も、「より軟らかい話し言葉的な文体」から「より硬い書き言葉的な文体」へと変化することが予想される。本稿では、こうした予想が計量的に示されるか検討する。

児童・生徒の作文を対象とした研究は種々行われてきている。特に、近年では、体系的に収集した作文コーパスを用いて計量的分析を行う研究が盛んになってきている。富士原ほか（2016）、石川ほか（2023）、浅原ほか（2023）には、作文を対象とした計量的研究や各種作文コーパスの概要が示されている。本稿では詳細な紹介は省略する。

以下、2節で、本稿の調査で用いる作文コーパス（JASWRIC）の概要及び分析指標として用いる文章文体値の概要を説明する。3節で、調査方法及び調査結果を示す。4節で考察を行い、5節でまとめを述べる。

2. 調査対象作文コーパス及び文章文体値について

2.1 「小中高大生による日本語絵描写ストーリーライティングコーパス」（JASWRIC）

本稿では、「小中高大生による日本語絵描写ストーリーライティングコーパス」（JASWRIC）（ver1.1）（石川ほか 2023）を、調査対象資料として用いる。

石川ほか（2023）によれば、JASWRIC は、日本人小学生・中学生・高校生・大学生¹、合計 700 名（1,400 編）による約 13.6 万語（短単位）の日本語作文が収録された作文コーパスであり、全データが一般公開されている。作文は、2 種類のストーリーライティングタスクを実施して収集されている。タスクは、「鍵」をテーマとした 4 枚の連続イラストを見て書くタスク（以下、「鍵」作文）と、「ピクニック」をテーマとした 5 枚の連続イラストを見て書くタスク（以下、「ピクニック」作文）である²。収集時期は 2022 年 1～2 月（小 3～小 6）、2022 年 4～7 月（そのほか）である。小中高生の作文は手書きであるため、書き起こしてデータ化されている。大学生はオンラインのサイト上に直接記入して書かれている。以上の生データが「素起こしテキストファイル」として公開されている。それとともに、この生データを「Web 茶まめ」（国立国語研究所）を用いて形態素解析した形態素解析済みデータも公開されている。形態素解析済みデータは、形態素解析の精度を上げるために、生データに対して校閲（平仮名の漢字化、平仮名のカタカナ化、エラー修正など）を行った校閲後のデータに対して、形態素解析（短単位）を行ったデータである。本稿の調査では、この形態素解析済みデータを用いる。

JASWRIC のテーマ別・学年別の作文数・語数（短単位数）を、表 1 に示す。

表 1 JASWRIC のテーマ別・学年別の作文数・語数（石川ほか（2023）に基づく）

学年	人数	「鍵」作文			「ピクニック」作文		
		作文数	総語数	1作文当たり語数	作文数	総語数	1作文当たり語数
小1	37	37	2,328	62.9	37	2,446	66.1
小2	43	43	3,084	71.7	43	2,683	62.4
小3	35	35	3,884	111	35	3,461	98.9
小4	27	27	3,023	112	27	2,742	101.6
小5	58	58	6,045	104.2	58	5,611	96.7
小6	62	62	6,080	98.1	62	5,451	87.9
中1	22	22	2,839	129	22	2,158	98.1
中2	112	112	10,499	93.7	112	9,597	85.7
中3	45	45	4,623	102.7	45	4,323	96.1
高1	90	90	10,811	120.1	90	9,343	103.8
高2	86	86	9,597	111.6	86	8,561	99.5
高3	30	30	3,545	118.2	30	2,980	99.3
大1	53	53	5,700	107.5	53	5,221	98.5
合計	700	700	72,058	102.9	700	64,577	92.3

¹ 大学生は「児童・生徒」ではないが、分析対象に含める。

² 書き出しは、それぞれ、「ケンはずちの鍵を持っていますませんでした。」「朝、ケンとマリはサンドイッチを作りました。」が指定されており、この続きを書かせることになっている。この書き出しは、作文データには含まれていない。

2.2 文章文体値

本稿で用いる文章文体値は「語文体値」に基づいて算出される値である。

語文体値は、『BCCWJ 図書館サブコーパスの文体情報』（国立国語研究所 2015、柏野 2013）に掲載されている図書館サブコーパス内の各サンプル（文章）に付与されている文体情報を利用して、語³ごとの文体差を連続的な数値として示したものである（馬場 2018、馬場 2022a）。

語文体値には5種類の値があるが、本稿では、そのうち「語文体値（硬度）⁴」を用いる。語文体値（硬度）は、語の文体の硬度（硬さ・軟らかさの程度）を表す値である。例えば、「仲良し」「場所」「危機」の語文体値（硬度）は、それぞれ、3.154、2.670、2.267であり、値が小さいほど、より硬い書き言葉的な文体で使われやすい語であることを表している。

文章文体値は、語文体値を利用して、「文章の文体」を推定する値として提案されたものである（馬場 2022b）。馬場（2022b）では、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（BCCWJ）のコアデータのサンプル（文章）の文章文体値を求め、コアデータの各レジスターの文体的特徴を文章文体値によって適切に再現できることを報告している。

本稿では、語文体値（硬度）に対応させて、文章文体値についても「文章文体値（硬度）」を用いる。文章文体値（硬度）は、ある文章の文体の硬度（硬さ・軟らかさの程度）の目安を表す値であり、その文章に用いられている語（異なり）の語文体値（硬度）の平均値である⁵。文章文体値（硬度）の値が小さいほど、より硬い書き言葉的な文体の文章であることを表している。

3. 分析方法及び分析結果

3.1 分析方法

「鍵」「ピクニック」のテーマ別に、各作文の文章文体値（硬度）を算出し、学年別の平均値の推移を分析する。

使用データについては、各作文の文章文体値（硬度）の算出では、JASWRIC の形態素解析済みデータ「JASWRIC_Tagged_v1.1.xlsx」を用いる。このデータは、短単位の形態素解析を行ったデータである。形態素の単位を揃えるために、『語の文体値データ』の短単位語彙素データ「WS_suw_all.xlsx」（馬場 2022a）を用いる。

実際の分析手順については、まず、JASWRIC 形態素解析済みデータの作文ごとに、異なり語（短単位形態素）⁶のリストを作成し、その異なり語のそれぞれの語文体値（硬度）を「WS_suw_all.xlsx」から取得する⁷。次に、各作文の異なり語の語文体値（硬度）の平均値を求め、その値を、その作文の文章文体値（硬度）とする。さらに、テーマ別・学年別に文章文体値（硬度）の平均値を求める。また、その平均値について統計的な有意差の有無を確認するために多重比較を行う⁸。

³ 正確には、「短単位の形態素」「長単位の形態素」である。

⁴ 馬場 2018、馬場 2022a では、「硬度平均値」と呼んでいる。

⁵ 「語文体値」「文章文体値」の詳細な算出方法は、それぞれ馬場 2018・馬場 2022a、馬場 2022b 参照。

⁶ 助詞、助動詞、記号類は、分析対象から除外する。

⁷ 「語文体値（硬度）」算出の際のサンプル数が 10 サンプル以下の語は、内容による偏りが生じる恐れがあるため、分析対象から除外する。

⁸ 多重比較は R で行う。それ以外はエクセルで行う。

3.2 分析結果

テーマ別・学年別にまとめた文章文体値（硬度）の平均値及び標準偏差を、表2に示す。また、テーマ別・学年別の文章文体値（硬度）の平均値を、図1のグラフに示す。

表2、図1で、学年が進行するにつれ、文章文体値（硬度）の平均値は、特に、「鍵」作文で下降する傾向が見られる。こうした学年間の違いに関して、統計的な有意差の有無を確認するために統計的検定を行った。「鍵」作文、「ピクニック」作文のそれぞれについて、学年を群とする多重比較（Steel-Dwass法）を行った結果、「鍵」作文、「ピクニック」作文のそれぞれについて、表3の組み合わせで、 $p < 0.05$ で有意差があった⁹。

表2 テーマ別・学年別の文章文体値（硬度）の平均値・標準偏差

学年	「鍵」作文			「ピクニック」作文		
	作文数	文章文体値(硬度)の平均値	文章文体値(硬度)の標準偏差	作文数	文章文体値(硬度)の平均値	文章文体値(硬度)の標準偏差
小1	37	2.718	0.026	37	2.734	0.027
小2	43	2.722	0.026	43	2.727	0.029
小3	35	2.711	0.023	35	2.724	0.018
小4	27	2.716	0.018	27	2.719	0.020
小5	58	2.698	0.023	58	2.718	0.017
小6	62	2.691	0.023	62	2.710	0.026
中1	22	2.699	0.023	22	2.716	0.027
中2	112	2.696	0.024	112	2.716	0.022
中3	45	2.696	0.022	45	2.716	0.025
高1	90	2.687	0.025	90	2.719	0.024
高2	86	2.688	0.019	86	2.711	0.023
高3	30	2.690	0.020	30	2.717	0.027
大1	53	2.689	0.020	53	2.713	0.029

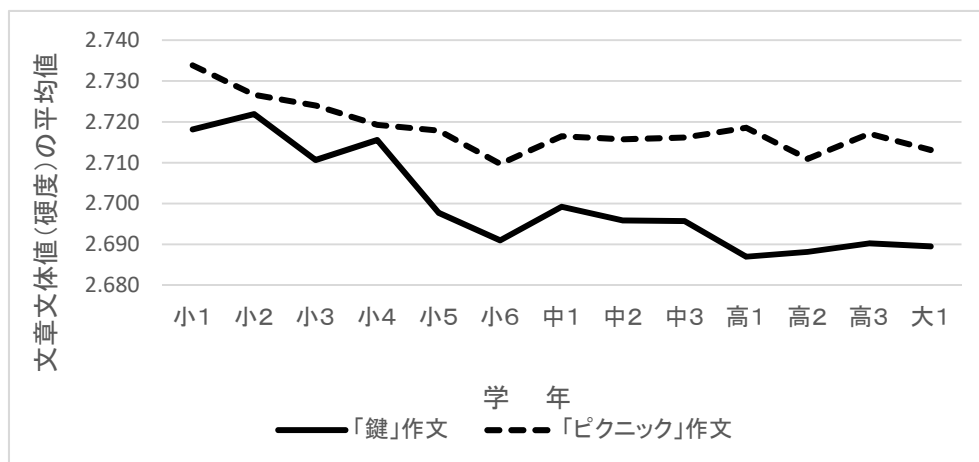


図1 テーマ別・学年別の文章文体値（硬度）の平均値

⁹ 検定統計量の記載は省略する。

表3 テーマ別の多重比較（Steel-Dwass法）の結果

	有意差(p < .05)があった組み合わせ							
「鍵」作文	小1:小5	小1:小6	小1:中2	小1:中3	小1:高1	小1:高2	小1:高3	小1:大1
	小2:小5	小2:小6	小2:中2	小2:中3	小2:高1	小2:高2	小2:高3	小2:大1
	小3:小6	小3:高1	小3:高2	小3:大1				
	小4:小5	小4:小6	小4:中2	小4:中3	小4:高1	小4:高2	小4:高3	小4:大1
「ピクニック」作文	小1:小6	小1:中2	小1:高1	小1:高2	小1:大1			

4. 考察

本稿の「はじめに」において、児童・生徒の作文の文体の学年的発達の方角として、「より軟らかい話し言葉的な文体」の作文から「より硬い書き言葉的な文体」の作文へと変化することが予想されると述べた。

本稿「3.2 分析結果」では、傾向としては、この予想を裏付ける調査結果が示されている。表2、図1からは、大きな傾向として、学年が上がるに連れて文章文体値（硬度）の値が小さくなり、より硬い書き言葉的な文体に変化していることがうかがえる。

ただし、テーマ別に詳しくみると、「鍵」作文と「ピクニック」作文とでは、若干異なる様相を呈している。

「鍵」作文では、表3の多重比較の結果で示されているように、ほぼ、小1と小5以上、小2と小5以上、小3と小6以上、小4と小5以上とで、統計的な有意差がある。すなわち、小学校低・中学年と小学校高学年以降とで統計的にも違いが出ており、「より硬い書き言葉的な文体」の作文へと変化していることが示されている。

一方、「ピクニック」作文では、表3の多重比較の結果では、小1と小6・中2・高1・高2・大1の間でしか、統計的な有意差が見られない。統計的には、おおよそ、小1～小5の間では差が見られず、小2～大1でも差が見られないということである。

このように、トピックによる違いが出た理由を、実際の作文例を見ながら検討していく。

本稿末尾の資料1、資料2に、「鍵」作文、「ピクニック」作文の各学年の作文を一例ずつ挙げている。これらの作文例は、表2の「文章文体値（硬度）の平均値」と同じ（同じ値がない場合は最も近い）値の作文である。

これらの作文例の内容や表現を見ると、「鍵」作文では学年の違いが大きいことが分かるのに対して、「ピクニック」作文では学年の違いがそれほど大きくないことが分かる。

「鍵」作文では、「2階で寝ているマりに呼びかける」「はしごを掛けて2階の窓から入ろうとするのを警官が見る」「警官に事情を説明する」という各場面の内容が、学年が上がるに連れて、より複雑・詳細になっている。

それに対して、「ピクニック」作文では、「地図を見ているときに、（サンドイッチを入れた）バスケットに犬が入る」「ピクニックに行く」「バスケットから犬が飛び出す」「犬に（サンド

イチを) 食べられてしまっている」という各場面の内容が、ほぼ類似する語彙で書かれており、学年が上がるに連れて、顕著により複雑・詳細になるということにはなっていない。そのため、学年による違いが大きくは読み取れない。

作文例の具体的な使用語彙に注目して検討する。

「鍵」作文では、小1の作文例は「持つ(2.579)¹⁰」が最小の語文体値(硬度)の語である。この語よりも語文体値(硬度)がより小さい値の語は、小2で1語(呼ぶ(2.565))、小3で2語(呼ぶ(2.565)など)、小4で1語(不法(2.261))、小5で4語(対する(2.385)など)、小6で5語(事情(2.516)など)、中1で3語(全て(2.514)など)、中2で8語(事情(2.516)など)、中3で6語(誤解(2.534)など)、高1で4語(試みる(2.314))、高2で9語(再度(2.29)など)、高3で8語(得る(2.401)など)、大1で4語(事情(2.516)など)となっている。

一方、「ピクニック」作文では、小1～小4の作文例はいずれも「地図(2.571)」が最小の語文体値(硬度)の語である。この語よりも語文体値(硬度)がより小さい値の語は、小5で2語(確認(2.495)など)、小6で2語(既に(2.46)など)、中1で3語(確認(2.495)など)、中2で2語(ルート(2.483)など)、中3で0語、高1で1語(共(2.423))、高2で0語、高3で3語(準備(2.549)など)、大1で0語となっている。

このように、「ピクニック」作文では、学年が上がっても語文体値(硬度)が小さい語が多く使われているということは顕著には見られない。

「ピクニック」作文は、内容自体が単純で、小学生でも大学生でもあまり文体的な硬軟の違いが出ない語彙が使われ、そのため、作文の文体の硬軟の違いも顕著には出なかったものと考えられる。こうしたことが、文章文体値(硬度)に反映され、計量的に明確な違いが出ない結果となったと思われる。

この結果は、文章文体値(硬度)は、作文の硬軟の文体差を、ある程度、反映した数値として利用できることを表しているものと見ることができる。

5. おわりに

本稿では、児童・生徒(小学生、中学生、高校生)が書いた作文の文体の違いについて、文章文体値を用いて計量的に分析することを試みた。「小中高大生による日本語絵描写ストーリーライティングコーパス」(JASWRIC)の作文1,400編を用い、小学1年生～大学1年生の各作文の文章文体値(硬度)を算出し、テーマ別・学年別の文章文体値(硬度)の平均値の違いを分析した。

分析の結果、児童・生徒の作文の文体(硬軟)の学年的発達の傾向として、「より軟らかい話し言葉的な文体」の作文から「より硬い書き言葉的な文体」の作文へと変化することを、おおよそ裏付ける結果となった。ただし、「ピクニック」作文では、学年間の統計的有意差がほとんど見られなかったが、実例を観察したうえで、この結果は、文章文体値(硬度)が作文の硬軟の文体差をある程度反映した数値であることをむしろ表すものであることを指摘した。

¹⁰ 括弧内の値は、語文体値(硬度)。

参考文献

- 浅原正幸、川崎采香、上原泉、酒井裕、須藤百香、谷口巴、小林一郎、越智綾子、鈴木彩香（2023）「『過去』『未来』を主題とする作文の分析」『計量国語学』34(1)、計量国語学会、pp. 17-30
- 石川慎一郎、友永達也、大西遼平、岡本利昭、勝部尚樹、川嶋久予、岸本達也、村中礼子（2023）「『小中高大生による日本語絵描写ストーリーライティングコーパス』（JASWRIC）の構築：L1/L2日本語研究の新しい資料として」『言語資源ワークショップ発表論文集』1、国立国語研究所、pp. 393-416（言語資源ワークショップ2022（2022年8月30日-31日）発表）
- 柏野和佳子（2013）「書籍サンプルの文体を分類する」『国語研プロジェクトレビュー』4(1)、国立国語研究所、pp. 43-53
- 国立国語研究所（2015）『BCCWJ 図書館サブコーパスの文体情報』（2015年公開第1版）<http://doi.org/10.15084/00003109>（2023年8月25日確認）
- 馬場俊臣（2018）「『BCCWJ 図書館サブコーパスの文体情報』を利用した語の文体差研究の可能性」『言語資源活用ワークショップ発表論文集』3、国立国語研究所、pp. 241-256
- 馬場俊臣（2022a）『語の文体値データ』（2022年2月公開第1版）<http://doi.org/10.15084/00003532>（2023年8月25日確認）
- 馬場俊臣（2022b）「『語の文体』と『文章の文体』—『語の文体値データ』を利用した『文章の文体』の推定—」『計量国語学』33(7)、計量国語学会、pp. 435-450
- 富士原紀絵、宮城信、松崎史周（2016）「児童生徒作文の基礎的研究—児童生徒作文コーパスの構築と活用—」『子ども学研究紀要』4、お茶の水女子大学子ども研究会、pp. 9-20

参考 URL

- 「『小中高大生による日本語絵描写ストーリーライティングコーパス』Japanese Students' L1 Story Writing Corpus (JASWRIC)」<https://language.sakura.ne.jp/jaswric/>（2023年8月25日確認）

〔資料1、資料2 凡例〕

- ・テーマ別に、各学年の作文例を1編ずつ示す。作文例は、表2の「文章文体値（硬度）の平均値」と同じ（同じ値がない場合は最も近い）値の作文を選んでいる。
- ・作文例は、「校閲」（2.1参照）を行う前のデータ（素起こしテキストファイル）である。「【誤】」表示等詳細は、石川ほか（2023）参照。

資料1 「鍵」作文 作文例

■小1 (G01_035) 文章文体値（硬度）2.718

ケンがかぎをもっていなかったので、はしごをもって、まりをおこそうとおもいました。けいさつにみつかってまりがそのおとがうるさくておきました。

■小2 (G02_006) 文章文体値（硬度）2.722

ケンはマリをよんで、ドアをあけてもらおうと思って、よんでみました。

でも、マリはおきずに、ずっとねていました。「はしごでのぼってはいろう」と、思いました。そしたら、けいかんがきました。けいかんは、「そのきみ！なにをやっているんだ。」といわれました。でも、マリが、おきていろいろいってくれたので、けいかんはどこかへいきました。

■小3 (G03_007) 文章文体値（硬度）2.711

でもそのまま会社へ行きました。ケンは夜に帰って来ました。なので、もうマリも寝ています。かぎを忘れた事

に気がついて、「マリー。あけてくれー！」とよびました。でもマリーはぐっすりとねむっています。そして、ケン、はしごでまどから入ろうとしました。もう少しの所でけいさつが、「何をしていますのですか！」と言ったのでわけを話しました。その間にマリーが起きて、その様子を見ていました。

■小4 (G04_003) 文章文体値(硬度) 2.716

家の中にいるマリーにドアを開けてと言いましたが起きません。はしごをつかってもっとマリーにきこえるようにはなそうしたら、けい官が、ふほうしんにゆうしているとかんちがいました。ケン家は家にかぎをわすれたからマリーにきこえるようにいったんですとけい官にいった。

■小5 (G05_006) 文章文体値(硬度) 2.698

マリーに呼びかけても、ずっとねているままです。そこで、ケンのはしごを使って2階の窓から入ろうとしました。そのときです。ケンのマリーに対する呼びかけの声で見まわりにきた警官がケンに問いつめます。マリーはその話し声で起きました。窓の外を見ると、はしごが立ててある横でケンと警官が笑いあっています。マリーは何があったのか分かりませんでした。

■小6 (G06_011) 文章文体値(硬度) 2.692

今は夜の12時。マリーはねていて家のかぎをあけてくれません。ですが、窓があいていたのではしごでのぼってそこから家に入ろうとしました。すると、警官がケンの事をあやしい人だと思い、声をかけてきました。ケンがじじょうを説明すると、警官は納得してくれました。そこでちょうど、マリーが起きてきたので、かぎをあけてもらい、ケンは家に入る事ができました。

■中1 (G07_017) 文章文体値(硬度) 2.699

2階で、マリーがねていることに気が付きます。はしごを使い、2階のまどから家に入ろうとしました。が、警官によびだされてしまいました。警察に、事情を全てはなすと分かってもらえました。マリーももう、起きています。

■中2 (G08_004) 文章文体値(硬度) 2.696

そこでケンは、家の二階にマリーがいるのを思い出しました。しかし、もう0時です。さすがにマリーは寝ているだろう、とケンは思いましたが、自分は家に入りたいたので、マリーを呼び起こそう、と考えました、しかし、いくら呼んでもマリーは起きません、ケンはあきらめかけていましたが、庭の倉庫にはしごがあるのを思い出しました。ケンは2階にはしごで上ろうとしたその時、警官に見られてしまいました。警官はどろぼうだと思ったようです。ケンは警官に事情を説明すると、納得してくれました。ちょうどその時、マリーも外がうるさく、心配したらしく、窓から顔を出しました、

■中3 (G09_036) 文章文体値(硬度) 2.696

家にマリーがいるのを思い出したケンは、2階のマリーの【誤】階屋に向かって大声で助けを求めました。しかしマリーはもう寝てしまっているようで、こちらに気づきません。どうしても中に入りたかったケンは、はしごを持ってきて家の壁にたてかけ、2階の窓から家に入ろうとしました。しかし、ちょうどそこを通りかかった警官に、ケンは不審者だと思われ、ケンは降りてくるよう呼びかけられました。ケンと警官が話【誤】い合っていると、やっとマリーが外の様子に気づき、ケンは無事、警官の誤解を解くことができたのです。

■高1 (G10_076) 文章文体値(硬度) 2.687

ケンはマリーに鍵をあけてもらおうとしましたが、マリーはすやすや眠っています。そこで、ケンは、はしごを使い、二階から家に入ろうとこころみました。しかし、登っている姿を警察に見られてしまい、どろぼうだと疑われます。そこに、マリーが起きて、「家族です」と言い、無事疑いは晴れ、ケンは家に入ることができました、

■高2 (G11_024) 文章文体値(硬度) 2.688

「参ったな。これじゃ家に入れないじゃないか。」再度カバンを漁ってみるが、見当たらない。「おーい、マリー、鍵を忘れてしまったんだ、入れてくれ。」ケンは彼の妻、マリーに呼びかけた。返事はない。普段通り2階の寝室で寝ているのだろう、仕方ない——「すみません。自宅の鍵を忘れてしまって。協力いただけませんか。」数分待つて警官がはしごと共に駆けつけてきた。遅い時間なのに申し訳ない。わたしは警官にレーザー銃を向けられながら2階のマリーのもとへ向かった。私のマリーとの関係は警官に認められた。「まったく、この人は。」

■高3 (G12_020) 文章文体値(硬度) 2.69

妻のマリーを呼んで鍵を開けてもらおうと試みるも、マリーはぐっすり眠っていて気が付きません。困って辺りを見【誤】周すと園芸用のはしごを見つけました。仕方が無いのではしごを登って窓をたたいてマリーを起こそうと思

い、順調に登っていたとき、「その人、何をしている、こちらへ来なさい」という男性の声が聞こえてきました。ふり返るとそこには警察の姿がありました、事情を説明しているとマリが起き、警察にも理解してもらえ、何とか事なきを得たそうです、

■大1 (G13_034) 文章文体値(硬度) 2.69

ケンはずの鍵を持っていませんでした。外から妻のマリを読んでも彼女は寝ていて気付きません。そこで彼はハシゴを使って空いてる窓から家に入ろうとしました。すると夜のパトロール中の警官がハシゴに登っているケンを見て、不審に思い事情を聞きました。ケンが事情を話していると、マリが外の異変に気付いて起きました。

資料2 「ピクニック」作文 作文例

■小1 (G01_003) 文章文体値(硬度) 2.734

そしてちづをみていました。そのときいぬがバスケットにとびこみました。ケンとマリは気づいていませんでした。ケンとマリはたのしくピクニックにいきました。そしてみはらしのいいところにすわりました。そしてバスケットをみました。そしていぬがとびでてきました。サンドイッチはかじられていました。

■小2 (G02_012) 文章文体値(硬度) 2.726

マリとケンがちづをみてしらべているあいだに犬がバスケットの中に入りました。ピクニックについたときに犬がとびでてきました。バスケットの中をみるとぜんぶいぬがたべてしまいバスケットの中は、からっぽでした。

■小3 (G03_026) 文章文体値(硬度) 2.722

2人はピクニックに行こうとしていました。地図を見ていると、犬がバスケットの中に入って、食べ物をたべてしまいました。それに気づかず、2人はピクニックに、行きました。バスケットの中から犬がとび出てきました。中を見るとりんごのしんやたべかすなどがのこっていました。

■小4 (G04_023) 文章文体値(硬度) 2.719

そして、ケンとマリが地図を見ているときに、犬がバスケットの中に入ってしまった。ケンとマリは犬がバスケットに入っていることに気づかずピクニックにいきました。ケンがバスケットを開けると犬がでてきてびっくりしました。ケンとマリがバスケットを見ると犬に食べられていたので落ちこみました。

■小5 (G05_033) 文章文体値(硬度) 2.718

二人で、どこへ行くかの確任をしていたとき、犬がバスケットの中に入ってしまった。そのことを知らず二人は出かけました。ごはんの時間になり、バスケットをあけると犬がとびだしてきました！食べ物を全て食べてしまったのです。こまった二人は食べカスを見て、残念がっていました。

■小6 (G06_029) 文章文体値(硬度) 2.710

そう、今日はピクニックです。2人はとても楽しみにして、サンドイッチを作りおわると、地図を見て、場所の確認をしました。すると、地図を見ている間にサンドイッチを入れたバスケットに犬が入ってしまったのです。2人はそれに気づかないまま出かけてしまい、いざたべようとしてバスケットをあけると、中からさっきの犬が出てきました。もうすでに中は食べられていました。

■中1 (G07_010) 文章文体値(硬度) 2.715

今日はピクニックに行くのでそれ用のサンドイッチです。しかし、それをつくって、地図で場所をケンとマリが確認したすきに飼い犬がバスケットにこっそりはいりました。そのことにまだ二人は気づいていませんでした。そして野原に行って散歩した後にお腹がすいてきたので昼食をとることにしました。そしてケンがバスケットを開けた瞬間、家においてきたはずの飼い犬がでてきて二人はおどろきました。中を見るとサンドイッチなどもってきた食べ物はすべて食べられていて、二人はがっかりしました。

■中2 (G08_004) 文章文体値(硬度) 2.715

二人はそれを持ってピクニックに行こうとしていました。ピクニックのルートを確認している時、サンドイッチがはいったかごに犬が入りました。二人はそれに気づいていないようです。二人はたのしく歩いていきました、お昼のサンドイッチを食べようとかごをあけたその時、中から犬がとびでてきました。びっくりした二人はかごの中を見ると、かごの中のサンドイッチは食べられていました。

■中3 (G09_013) 文章文体値(硬度) 2.716

作ったサンドイッチとリンゴをバスケットに入れた後ケンとマリは地図を見ました。その間に、犬がバスケットの中に入っていました、二人は気付きませんでした。二人はピクニックに出かけ、ランチを食べようとし

ました。すると、バスケットの中から犬が出てきて、サンドイッチとリンゴは犬に食べられてしまっていました。

■高1 (G10_015) 文章文体値(硬度) 2.719

ケンとマリがサンドイッチから目を離したすきに、犬がつまみ食いをしてしまいました。

それに気づかずにバスケットを持ってピクニックに行った二人は、バスケットの中から犬が出てきておどろくとともに、つまみ食いされたサンドイッチを見てひどく落ちこみました。

■高2 (G11_075) 文章文体値(硬度) 2.711

その後、二人で地図をみている間に、バスケットの中に犬が入り込んでしまいましたが、二人は気づきませんでした。それからしばらくして、二人は公園に到着しました。そこで昼食をとろうと思い、ケンがバスケットをあけたその瞬間、中から先程入りこんだ犬がとびだしてきました。犬が出ていった後のバスケットをみると、用意していたリンゴや、せっかくつくったサンドイッチもその犬に食べられてしまっていて、ケンとマリはがっかりしました。

■高3 (G12_006) 文章文体値(硬度) 2.717

作ったサンドイッチとリンゴをバスケットにしまい、地図を見ながらピクニックに行く準備をしていました、すると、ケンとマリがバスケットから目を離している間に、飼っていた犬がバスケットの中を食べ散らかしてしまいました、2人はそれに気づかず、そのままピクニックに出かけていざ食べるためにバスケットを開けると、その残骸しか残っておらず、とても驚きそしてがっかりしました、

■大1 (G13_010) 文章文体値(硬度) 2.713

2人が地図を見ている間に、バスケットに犬が入ってしまいました。2人はそれに気づかないまま出かけてしまいました。気づいた時には犬にバスケットの中身を齧られてしまっていました。